

首都圏外郭放水路は魅惑の空間 “フル稼働”で台風19号から街を守っていた

首都圏外郭放水路（Wikipedia、日本の治水施設(調整池)）

埼玉県春日部市の上金崎地から小淵にかけての延長約6.3km、国道16号直下約50m地点に設けられた世界最大級の地下放水路である。周辺の中川、倉松川、大落古利根川、18号水路、幸松川といった中小河川が洪水となった時、これらの洪水の一部を江戸川に流し、洪水の被害を軽減する。

1993年（平成5年）3月に着工し、2002年（平成14年）6月に一部供用を開始した後、2006年（平成18年）6月から全区間の完成と全川の供用が開始した。

公式の愛称は彩龍の川（さいりゅうのかわ）で、銘板にもその名が刻まれている。メディアなどでは地下神殿と呼ばれることが多い。

利根川水系に属する一級河川であり、国が直轄管理する大臣管理区間（指定区間外区間）である。

2019年（令和元年）10月 - 令和元年台風第19号により容量の9割の水を貯留した。過去3番目に多い貯留量であった。

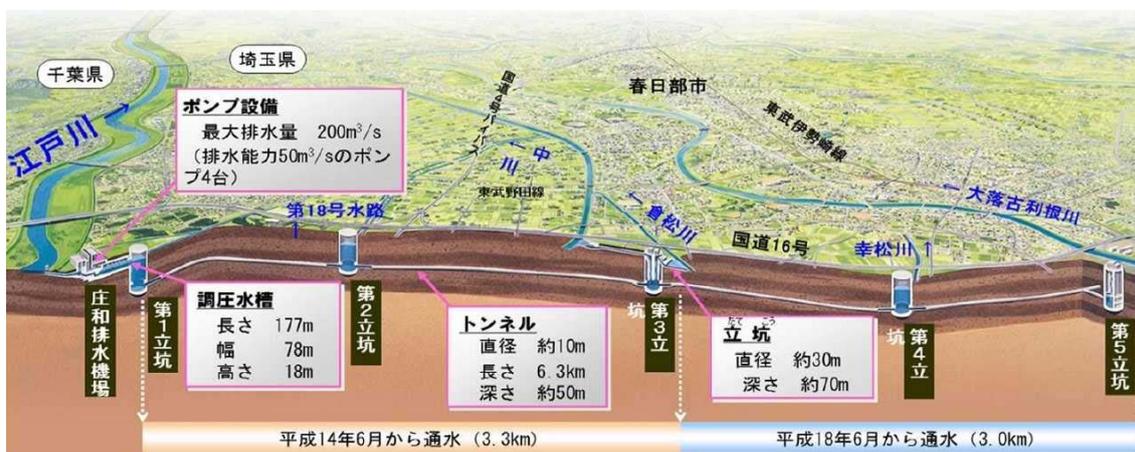
洪水を受け止めた「地下神殿」…首都圏外郭放水路が“フル稼働”で台風19号から街を守っていた FNN.jp 編集部 2019年10月16日

[https://www.fnn.jp/posts/00048550HDK/201910162000\\_FNNjpeditorsroom\\_HDK](https://www.fnn.jp/posts/00048550HDK/201910162000_FNNjpeditorsroom_HDK)

台風19号により全国各地の河川が氾濫、堤防が決壊

埼玉県にある首都圏外郭放水路が洪水を防ぐ大きな役割を果たしていた

今回、江戸川に50メートルプール約7673杯分の水を排出し洪水を防ぐ



1位  
730部

# 首都圏外郭放水路

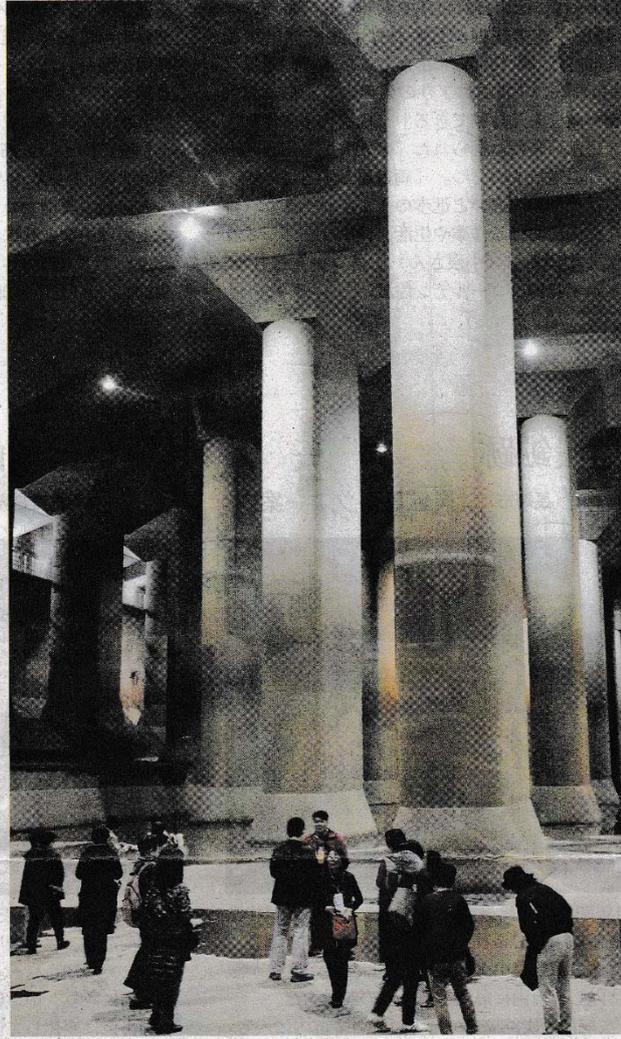
(埼玉県春日部市) 水害防止に一役「地下神殿」

魅惑の地下にお近づき

首都圏の治水対策の一つとして設けられた地底50㍍を貫く6㍍の地下放水路。大雨で中小の川が洪水になりそうなとき、水を江戸川へ流し被害を軽減する役割がある。雨水は深さ70㍍の5本の円筒形の立て坑をつなぐ地下トンネルを通り、調圧水槽で勢いを弱めて放水される。水槽は高さ18㍍、重さ500トンの59本の柱が天井を支える姿から「地下神殿」と呼ばれる。

10月の台風19号で浸水被害を大幅に軽減した。「首都圏を守るにはこれほど巨大な防災施設が必要と認識させられる」（竹内秀一さん）。「スケール感や見栄えだけでなく生活を守る施設の意義を知り、日本の土木技術の粋や土木の価値を知るきっかけになる」（河野まゆ子さん）

調圧水槽のほか、立て坑の体験、江戸川へ水を排出するポンプ室の見学など「3コースから選べるのが魅力」（前知温子さん）。①大人料金 地下神殿コース 1000円など②問い合わせ先 <https://www.gaikaku.jp> (首都圏外郭放水路見学会受付)



AR  
NIKKEI